

C-1 実践的プロジェクトマネジメントオフィス 9/5 10:00 プロジェクトマネジメント組織成熟度向上のためのPMO

アルテミスインターナショナル株式会社
代表取締役社長 仲村 薫

【セミナーの狙い】 組織としてプロジェクトマネジメントに取り組み、プロジェクトマネジメントの組織成熟度を上げ、プロジェクトの適切な推進によって組織目標を達成することを模索している企業が増加している。それを支えるPMO（プロジェクトマネジメントオフィス）に何を期待すべきか、またどのように推進すべきかを議論する。

【セミナーコンテンツ】 プロジェクトマネジメントの組織成熟度を考慮したPMOの活動とその効果について、事例を交えて紹介する。その後、ワークショップ形式で、グループごとに各社のPMOが抱える問題や今後の推進について討議し、相互に発表しながら講師を交えた全体討議を行う。

【受講をお奨めする方】

実際にPMOのメンバーとして活動されている方々

PMOの活動改善に携わる方々

プロジェクトマネジャーの立場から、PMOに期待される方々

【講師略歴】 アルテミスインターナショナル(株)にてプロジェクトマネジメントのコンサルティングを行っている。PMOの研究をライフワークとしており、2冊の書籍を出版。東京工業大学博士課程にて効果的PMOについての研究を行っている。PM学会理事

D-1 ITプロジェクトのなぜなぜ5回(階) 9/5 10:00 成功のために組織の支援を得る5つの階層

株式会社 FFC 共通技術センター
PMO推進室 担当部長 小原 由紀夫



【セミナーの狙い】 トヨタにおける改善の中で原因を見つける手法として「なぜなぜ5回」が使われている。1日目の発表のようにソフトウェア開発においても「なぜなぜ5回」を用いて真因を求める有効性が発表されている。真因を見つけた後、真因を解決する対策には、プロジェクト内で解決できる対策と、組織からの支援が必要になる対策がある。プロジェクトマネジャーはプロジェクト内で解決できる対策を推進すると同時に、組織の支援を得るためにステークホルダーと交渉する。本セミナーではITプロジェクトにおいて成功のために必要な組織の支援を導く「なぜなぜ5回」の5つの階層を紹介する。さらに、プロジェクトへの支援が組織としての再発防止であることを説明する交渉ストーリーを学ぶことをねらいとする。

【セミナーコンテンツ】 1.問題の識別と影響 2.なぜなぜ5回(階)の背景と方法 3.プロジェクト成功への支援交渉 4.TPSとPMBOK®の対応

【受講をお奨めする方】 1.IT関連のプロジェクトマネジャー、または、リーダー 2.IT関連のラインの部長 3.TPSに興味がある方

【講師略歴】 1983年富士通入社後、出向、転籍を経て現職。20年間、グローバル企業に成長する日本の電機・自動車の工場基幹システム構築プロジェクトにベンダーのプロジェクトマネージャとして参画した。世界一の品質を産み出すステークホルダーからTPSなどを実践的に体得した。中国・韓国オフショア開発で国際感覚を身につけ、米国クイテンスマネジメント社認定講師としてグローバルで成功するPMメソッドを普及している。PMP®、PMAJ会員、PMAJ-IT-SIG「TPSIに学ぶPMJ」WG主査。

C-2 『生産WBS』による個別設計生産のマネジメント革新 9/5 13:45 SCMからEPMへのパラダイムシフト

株式会社テクナレッジ・ジャパン
代表取締役 林 謙三


【セミナーの狙い】 生産機械、産業機械、等々生産財を生産する製造業は、モノづくり大国「日本」を支える屋台骨であり、日本国内に永続的に残る産業の一つであり、その多くは個別設計生産(Manufacture of Engineered Products)の生産形態にある。この個別設計生産のマネジメントに、プロジェクトマネジメントの基本概念であるWBSの考え方を敷衍した『生産WBS』という新たな考え方を導入し、生産マネジメントのイノベーションを誘発させたい。本セミナーでは、参加者の方々た『生産WBS』の可能性についてアグレッシブな討議を行いたい。

【セミナーコンテンツ】 セミナーの主旨に沿い、説明は簡潔にし、討議の時間を多く設けたい。内容としては、1. WBSの捉え方(PMBOK®との差異)、2. 個別設計生産の特徴、3. 生産WBSの特徴、4. 生産WBSの活用について説明し、その後実り有る討議を行いたい。

【受講をお奨めする方】 1. 『生産WBS』に興味のある方、2. 個別設計生産型製造業の方、3. 研究開発型企業の方

【講師略歴】 1969年日揮株式会社入社、国内外の工場建設プロジェクトを中心に各種プロジェクトを経験するとともに、プロジェクトマネジメントシステム(PMS)の構築・運用にも従事。1995年に独立し、株式会社テクナレッジ・ジャパンを設立して現在に至る。技術士(経営工学部門) 著書：生産WBS入門(オーム社、2007年)

D-2 元気の素を測り、分析から行う効果的なチームビルディング 9/5 13:45 モティベーションの構造化モデル(PS調査)とプロジェクト診断

PS研究会:松尾谷 徹(法政大),宮下 圭一(株)富士通ASOL),
松田 浩一(富士通(株)),石田 誉幸(株)CIJ)  ワークショップ

【セミナーの狙い】 「測れないものは制御できない」この基本原理は、プロジェクトやチームの人的能力についても成り立つ。集団における仕事意欲は、高い/低いと言う単純なものではなく、複数の要因とその相互作用からなる複雑システムであり、「褒める」など画一的な対策には限界がある。今回のセミナーは、仕事意欲を高める手段ではなく、どんな症状においてどんな手段を選択するのか?あるいは、選択してはいけないのか?について、PS研究会における研究と実践を紹介する。測る方法は、2001年にJISAで行ったPS調査から継続的に進化した「PS調査バージョン5」(財団法人日科技連提供)であり、分析モデルは、PMAJジャーナル4月号(第31号)で紹介した「人的資源の動的解析とリスク予知」を用い、診断と対策の選択を行う方法について紹介する。

【セミナーコンテンツ】 システムシンキングによる人的資源の動的モデル、PS調査/リアルタイムPS調査、モチベーションドライバー、プロジェクトの元気度診断、モチベーション対策の選択方法、実践の方法

【受講をお奨めする方】 メンバーの仕事意欲に問題を感じているチームリーダー、PM、PMO、プロジェクト支援の方

【講師略歴】 PS研究会:プロジェクトなど多様な人員構成(ダイバーシティ)下における仕事意欲を研究、実践する任意団体。今回の発表は、その中のタスクMM4が担当する。MM4は、第一線で活躍するPMが中心となり、元気を診断するPS診断の研究を行っている。
■松尾谷 徹: PS研究会代表、法政大兼任講師、博士
■宮下 圭一: (株)富士通「ITソリューション」(FASOL)ソリューションビジネス本部統括部長
■松田 浩一: MM4代表 富士通 ネットワークソリューション事業本部統括部長
■石田 誉幸: (株)CIJ SIビジネス事業部副事業部長

E-1 巧みなビジネス・プレゼンテーションのコツを学ぶ 9/5 10:00 ステークホルダーは、いかなる話に耳を傾け、心を傾けてくれるのか

モアグレイス株式会社
代表取締役 村松 かすみ

【セミナーの狙い】 「仕事ができる」「人望が厚い」「信頼できる」等の評価をされている人は、一方的に「伝える」ではなく、相手の立場に立って話の出来る「伝わる」話し方の技術をもっている。プロジェクトを進める時、または日常業務の中で必要なビジネス・プレゼンテーションのコツとは? 私達は、いかなる話に耳を傾け、心が動かされるのか…。一方的に「伝える」プレゼンテーションから、相手に「伝わる」プレゼンテーションのポイントをご紹介します。

【セミナーコンテンツ】 Part 1 プロジェクトのフェーズとプレゼンテーション Part 2 プレゼンテーションで押さえるべき基本 Part 3 「伝える」から「伝わる」プレゼンテーションへ

【受講をお奨めする方】 1.プロジェクト・マネジャー、プロジェクト・チームのメンバー、プロジェクトの依頼者(顧客)の方々、2.日常の業務をもっと効果的にしたいと考えている方々、3.アカウントビリティ(説明責任)の能力を高めたいと考えている方々

【講師略歴】 日本体育大学女子短期大学卒業。富士通(株)に6年間勤務。富士通時代に参加したビジネス・プレゼンテーション研修をきっかけに、プロのインストラクターを生涯の仕事とすることを決意し、教育研修会社に転職する。2008年モアグレイス(株)を設立、代表取締役役に就任。プラネット(株)シニア・インストラクター。慶應義塾大学にてコミュニケーション理論を研究中。厚生労働省YES-プログラム認定試験ビジネス・キャリア・エントリー試験問題作成委員。著書に「できる 使えるプレゼン術」(JMAM)。

F-1 ポートフォリオマネジメント実践法 9/5 10:00 IT投資価値の最大化をどう実現?

株式会社ピーエム・アライメント
取締役 中谷 英雄

【セミナーの狙い】 大手金融機関システム開発では、年間数十～数百億円のIT投資が行われている。ITと金融ビジネスの結びつきが強まっている中、IT投資の性格が、従来の効率化を目標としたものから、より戦略的な効果を求めるものにシフトしてきている。一方で、従来の金融機関IT投資は、個別のプロジェクト単位で管理され、全体最適の観点からビジネス戦略との整合性を評価してきていなかった。IT部門への目が厳しくなる中、CIOの説明責任向上が求められてきている。まず、大手金融機関数社のポートフォリオマネジメントの具体的事例を取り上げ、課題、解決方法を探る。その中で、IT投資価値を最大化するために、組織、マネジメント、評価基準等はどうあるべきかを、上位管理者の立場から検証する。次に、情報システム部門を仮想として、国際的に認められているマネジメント標準の活用方法について分析を加える。

【セミナーコンテンツ】 1.ポートフォリオマネジメントの具体的事例 2.解決の糸口 3.国際標準の活用 4.理想的なポートフォリオの仕組み

【受講をお奨めする方】 IT投資管理、プロジェクトポートフォリオマネジメントに興味がある方

【講師略歴】 大手ITベンダー、信託銀行のシステム部門を経てシステム開発、プロジェクトマネジメントに従事。その後、現在の会社で、金融機関情報システム部門を対象に、ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメント、リスクマネジメントのコンサルを務める。PMAJ会員、PMI東京PFM研究会会員

E-2 「人を育てる」ことは嫌いですか? 9/5 13:45 ~部下や後輩を育成し、自分の仕事を向上させる~

グローバルナレッジネットワーク株式会社
人材教育コンサルタント 田中 淳子

【セミナーの狙い】 新卒の大量採用時代となり、若手の人口比率が高くなっている組織も多い。従来は数年かけて育てた若手を、近年は早期に立ち上げ、できるだけ早い段階で独り立ちさせなければならぬという課題を現場では抱えている。ところが、久々に多くの若手社員を迎えた職場では若手を教えるノウハウの蓄積が少なく、マネージャやベテラン社員が戸惑っている。さらに、「自分が若いころ、誰も育ててくれなかった」という心理的抵抗や「後輩の育成に関わる余裕がない」という物理的な制約もある。このセッションでは、若手をどう育てればよいか、人育ての考え方も誰もが身近なことから始められる人育てに関わるコミュニケーションのノウハウを学ぶ。

【セミナーコンテンツ】 ●若手育成での課題 ●若手はどう感じているか ●「人育て」は「自分育て」 ●自分が育った過程を思い出してみる ●今日からできること *座学ではなく、途中、何度か隣の方とお話しするワークを交えた参加型のセミナーです。

【受講をお奨めする方】 ●部下や後輩の育成や成長支援に興味のある方 ●部下や後輩をどう育てれば良いか、他の参加者と考えや体験を共有したい方

【講師略歴】 1986年日本デジタルイクイップメント入社、IT技術研修に従事。91年ヒューマンスキル分野の研修事業を立ち上げる。96年グローバルナレッジネットワーク入社後ヒューマンスキル分野の人材育成に専念。これまでに「日経ITプロフェッショナル」「日経SYSTEMS」「日経コンピュータ」誌でコミュニケーションに関する連載を担当。著書「速効!ISEのためのコミュニケーション実践塾」「速効!ISEのための部下と後輩を育てる20のテクニック」(共に日経BP社)「はじめての後輩指導~知っておきたい育て方30のルール」(日本経団連出版)

F-2 現場力を高めるプロジェクトマネジメント 9/5 13:45 経営力を高める現場力の強化

株式会社プロジェクトマネジメントオフィス代表 好川 哲人
有限会社経営組織研究所代表 渡辺 貢成(ゲスト講師)

【セミナーの狙い】 プロジェクトマネジメントの導入効果として注目されはじめている経営の現場力の向上について、多くの分野でのプロジェクトマネジメントの経験を持つ識者をゲスト講師(渡辺貢成氏、PMAJ理事)に迎え、現場力のイメージ、現場力の必要性についてインプットを受けるとともに一般的なイメージを理解する。それを念頭において、自分たちの組織においては、どのような現場力が求められるかを検討し、また、それを実現するプロジェクトマネジメントのポイントを把握する。

【セミナーコンテンツ】 1. 講師紹介(講師の現場力についての見識の背景の説明) 2. 「現場力とは何か」、「なぜ現場力なのか」についてゲスト講師から基本的な考え方を示す(50分) 3. 自分たちが考える現場力の重要性とあるべき姿

(1) グループ内自己紹介 (2) 議論 ●各グループが考える現場力とはどのようなものか ●現場力を高めるにはどのようなプロジェクトマネジメントが必要か (3) 発表と議論 (4) 講評とまとめ

【受講をお奨めする方】 プロジェクトマネジャー、プロジェクトマネージャーの上司(部長、課長)、PMOスタッフ

【講師略歴】 ■好川 哲人: 株式会社プロジェクトマネジメントオフィス代表。PMstyle代表。コンサルタントとして、新規事業開発、研究開発、商品開発、SIなどのプロジェクトを成功に導く。2万人が購読するメルマガ「プロジェクトマネジャー養成マガジン」を発行
■渡辺 貢成: 日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)理事、PMAJジャーナル、PMAJオンライン(ウェブ誌)編集長、PMAJ P2M研究会代表 PM歴50年:化学プラント、石油プラント、原子力関連プラント建設、国際宇宙ステーションプログラム関連